

校長室だより
NO. 50
平成31年2月12日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

体力・運動能力テスト男女で全国平均を上回る

今年度の6月に、全校で体力・運動能力調査を行いました。一般的に言われているスポーツテストです。その中で、毎年、スポーツ庁が小学校5年生、中学校2年生を抽出学年として、そのデータを分析して「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」として発表しています。その全国の結果は、小学校5年生、中学校2年生ともに男子は横ばい傾向、女子は向上傾向にあり、女子は平成20年度の本調査開始以降で最高値ということが報じられていました。愛知県の結果は、あまり芳しくなかったようです。1月末に本校の5年生のデータが整理されて届きましたのでお知らせします。

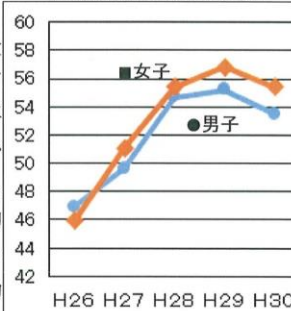
本校の今年度の結果は、男女の全8種目ほとんどが全国平均を上回っていました。これはこの3年間で連続して現れているよいデータで、とてもうれしく感じています。右の表（全国平均：50）がそのことを表しています。男子で「50m走」と「立ち幅跳び」が、女子で「握力」がやや下回っていたくらいでした。子どもたちのがんばりとともに、その指導も確かであったことを感じます。表内の数字はT得点と言い、全国平均を50、標準偏差を10として正規分布になるように変換した得点で、よく言う偏差値と同じような意味です。だから、T得点が50より大きくなればなるほど、全国的に優れているということです。男女の体力合計点は、全国の中で上位から3割程度以内に入ると考えられます。

各項目別の本校5年生のデータ(T得点)

	男子	女子
握力	50.8	48.4
上体起こし	53.3	52.6
長座体前屈	57.4	54.4
反復横跳び	53.8	57.1
20mシャトルラン	51.1	54.8
50m走	49.5	52.0
立ち幅跳び	49.8	52.1
ソフトボール投げ	50.8	54.5
体力合計点	53.5	55.4

また、T得点で経年変化も見ることができます。右のグラフは、平成26年度からの本校の合計得点（平均）の推移を表したものです。平成26年度は男女ともに全国平均以下でしたが、平成27年度より徐々に上向いてきました。そして、平成28・29・30年度は全国平均を安定して超えることができています。今年度は多少下がってはいますが、当初を思えばすばらしいことです。

体力合計点の推移(平成26～30年度)
※全国平均は50としたT得点



この調査については、子どもの身体にかかわる体力的なことですので、数値を上げることは難しいこととっていました。しかし、体育の授業や体育的行事、部活動等で、子どもたちの取り組みを工夫できるようにするなど、視点をもって指導を工夫してきた効果が見られています。まさに「やればできる」ことが分かります。

次に、子どもの意識調査の結果について、今年度の5年生は裏面の表のようになり、

運動習慣調査の結果(項目は全国との違い、昨年度の本校との違いの顕著なもの)

調査項目【】内は選択肢	男子		女子	
	梅園小	全国	梅園小	全国
①運動は大切【思う】	72.4%	69.6%	51.6%	57.9%
②中学校で授業以外でも自主的に運動したい【思う】	78.7%	76.8%	53.4%	69.1%
③1日の体育の授業以外の運動やスポーツの平均時間(分)	120.9分	84.2分	90.6分	50.6分
④体育の授業は楽しい【楽しい】	76.3%	73.6%	53.2%	59.6%
⑤体育の授業で目標が示されているか【示されている】	39.7%	50.6%	36.1%	48.4%
⑥体育の授業で振り返る活動【行っている】	35.1%	33.2%	27.9%	31.3%
⑦体育の授業で助け合う活動【行っている】	60.5%	51.2%	48.4%	54.4%
⑧体育の授業で話し合う活動【行っている】	56.6%	53.3%	46.8%	49.3%
⑨できないことができるようになったきっかけ				
1)【授業中に自分で工夫して練習した】	47.2%	35.4%	39.3%	33.8%
2)【先生や友達のまねをしてみた】	50.0%	43.1%	62.3%	53.2%
3)【友達に教えてもらった】	62.5%	48.2%	68.9%	64.2%
4)【授業外の時間に自分で練習した】	27.8%	25.3%	24.6%	34.3%
⑩体育の授業で学んだことを授業以外にも行う【当てはまる】	45.3%	44.9%	32.3%	43.9%
⑪体力・運動能力の向上の目標【目標を立てている】	73.7%	72.0%	69.4%	71.2%
⑫最後までやり遂げてうれしかったことがある【当てはまる】	69.7%	73.5%	80.6%	75.5%
⑬自分にはよいところがある【当てはまる】	53.9%	44.5%	50.0%	36.4%

男女、また昨年度の5年生(現6年生)と比べ意識の違いが見られ興味深く感じさせます。上の表で網掛けが全国より10ポイントほど上回っている項目、太線枠が10ポイントほど下回っている項目、二重線枠が昨年度との差が著しい項目です。

まず、運動への意識と実際(調査項目①～③)については、女子の意識の低さが気になります。これが他の項目に関係しているようです。また、1日の体育の授業以外の運動時間は、男女で各40分程多くなっています。これは、部活動やスポーツクラブでの活動をしていることが考えられ、部活動の意味を感じます。

体育の授業(④～⑧)については、男女共通しているのが、「目標の提示」「話し合い活動」の数値です。これまではこの数値が比較的高いものでした。ここに、この学年の子どもたちへの指導上の課題があります。ただし、男子においては授業中の「助け合う活動」の意識が高く、そのことが、表ページの結果につながっているようです。

「⑨できないことができるようになったきっかけ」については、「自分で工夫した」「まねをした」が比較的高く、個人内で努力している姿を表しています。これも運動能力データのよさにつながっているようです。ただし、「授業外の時間」の、例えば「放課など」となると昨年度と比べても数値が下がっています。

その他(⑩～⑬)について、女子の「学習の活用」「運動能力の向上への目標」についての意識が気になります。しかし、「達成感を味わった経験」「自分のよさ」については、高い数値を示し、自己有能感を持っている子どもが多いことが分かります。

このように調査結果と習慣調査を関連させますと、体力・運動能力についての課題と今後の指導上の留意点が見えてきます。それらを基に、体育の授業のあり方を改善し、さらに向上を図る手立てを探っていきたいと考えます。